（様式４）

令和５年３月２４日

富山県教育委員会教育長　殿

富山県立富山いずみ高等学校
校長　　越後　喜紀

令和４年度学校総合評価を別紙（様式５）ともに提出します。

令和４年度　　学 校 総 合 評 価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

本校では今年度、「生徒の実態に即したきめ細かい学習・進路指導、生徒指導を通して、生徒各自が満足できる進路実現を図るとともに充実した高校生活を送らせる」ことを学校課題とし、以下の取組を行った。

総合学科は［学習活動］では、学習指導計画（シラバス）でねらいを明確にし、学習に対する動機付け・意識付けを行なった。重点課題として「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践と家庭学習習慣の確立に努めた。［進路支援］では、１年次の「産業社会と人間」で進路目標を明らかなものとし、２年次からの総合的な探究の時間を通して発展的な学びに繋がるよう努めた。重点課題として、進路実現に対応できる能力を身に付けるための進路支援や面接指導の充実を図った。

看護科は［学習活動］では、動機付け・意識付けを的確に行い、５年間で必須な基礎学力の充実に努めた。［看護師養成］では、個別指導・少人数指導等や病院等での実習を通して、人間尊重の精神を基本とし、望ましい看護師の養成に努めた。

学校全体として［学校生活］では、社会規範や校則についての意識を高めて、集団生活でのルールやマナーについて考え、自律できる生徒の育成に努めた。［特別活動］では、生徒の研修会を通して協働性、責任感等の育成を図り、問題解決能力の向上の支援に努めた。

学校アクションプランの達成目標１１項目のうち、目標を達成したのは４項目であり、７項目は B､C､D の評価であるため、総合評価を C とする。

７　次年度に向けての課題と方策

今年度の評価をもとに各項目について以下のように取り組んでいきたい。

「学習活動」・「主体的・対話的で深い学び」になるように、教育用クラウドサービスの活用や面談等を通して計画的な学習ができるよう援助を行うとともに、探究活動の充実を図る。また、授業改善につながるように互見授業の継続、および ICT 機器の効果的な活用等の研修を行っていくことが必要である。

「学校生活」・ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう、継続して指導に取り組んでいく必要がある。
・近隣の県でも災害が頻発しており、災害の比較的少ない富山県に在住していても、引き続き防災教育の推進に努めていく必要がある。

「進路支援」・多様な入学者選抜方式の中で、生徒個々の強みを活かす方式の選択と指導について、体系的な指導体制の構築と情報共有の強化が必要である。
・学習支援アプリや成績処理システムの活用により、面接資料や志望理由書、活動調書を作成し、多面的･総合的な評価を進路実現に繋げる方策を推進する必要がある。

「特別活動」・生徒による主体的な学校行事への取組支援と、実施方法の模索の継続が必要である。
・ホームルーム活動の改善点を情報共有し、生徒とともに考えて「育てたい力」の伸長を目指したい。
・教科や探究活動と連携し、自ら意欲的に読書に取り組むような支援が必要である。

「看護教育の充実」・新教育課程における効果的な授業実践の検討と充実を図る。
・臨床判断能力育成のため、シミュレーション教育の充実と ICT 活用をより一層推進する。
・進学希望者への進路実現に向けての指導を充実させる。

生徒たちが様々な活動に主体的に取り組む学校を作っていくため、「富山いずみ高校三つの方針（スクールポリシー）」を学校全体で浸透させ、目指す学校像に向けた具体的な改善を行っていきたい。

学校アクションプラン

<table>
<tr><td colspan="3">令和４年度　　富山いずみ高等学校アクションプラン　－１－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">1 学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">・家庭学習習慣の確立
・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・生徒の進路目標が多様であり、それぞれに応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であることから、教科ごとに成績にばらつきが見られる生徒が多い。
・進路や学習に対する目標が明確でないことで、学習へ向かう姿勢が受動的になる等、学習意欲にも影響を与えている場合がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①　家庭学習の振り返りアンケートにおいて
・計画を立てて学習している
・課題以外の学習に取り組んでいる
・テストの見直しを行いその後の学習改善につなげている
の各項目のポイント（10 点満点）</td><td>②ＩＣＴ機器を有効活用した授業を行うことができた教員の割合</td></tr>
<tr><td>３つの項目の平均点
５点以上／１０点満点</td><td>９０％</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・学習振り返りシートを活用し、自分の生活リズムや学習方法、学習時間について考えさせる。
・担任等による面接指導を充実する。
・小テストや課題の提示を、評価の場面や方法を工夫しながら計画的に実施することで、学力の伸長や定着を図る。</td><td>・ＩＣＴ活用指導力の向上に向けた研修を行う。
・互見授業の実施や他校の実践を見学し、教員間で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて意見交換を行い、授業改善に活かす。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td>１学期（全学年）　６．１　点
２学期（全学年）　６．４　点</td><td>・ＩＣＴ機器の有効活用　　９６％
（教員アンケート）</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">①　生徒が学習目標や計画をたててそれを達成できるために、各学年で取り組みを行った。
(1年)　デイリーワーク等で学習習慣の定着を図るため、定期考査、実力テストや模試後の見直しが重要であることについて指導してきた。Google classroomを利用して目標設定や学習時間の確認を行い、デジタルサービスを利用した学習習慣の振り返りにも取り組ませた。
(2年)　デイリーワークやデジタルサービスの課題に取り組むことで、主体的に学習ができるように継続的に指導した。模試の目標設定や振り返りができるように援助したり、将来学びたい内容を深く掘り下げたり、進路希望先の特徴を調べたりすることで進路先が明確になるように指導した。
(3年)　週間課題や朝時間を利用した小テストやコラム学習で、基礎学力の向上や視野の拡大を図った。また、高い目標をもつ生徒に対して共通テスト対策の放課後補習や個別試験対策の添削指導を行った。
②　授業改善を目指して実施した互見授業には、1学期は37名、2学期には49名の教員が参加した。また、互見授業週間中には、ＩＣＴ活用指導力の向上に向け、教科毎にICTを活用した授業公開も行った。機器を用いてわかりやすく教材提示したり、生徒の意見を反映したりする双方向の授業も行われ、「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けてよい研修となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価</td><td>①　B</td><td>2 学期の家庭学習の振り返りアンケートでは、1 学期より 3 項目ともに達成度の数値が上がった。しかし、「計画を立てて学習することができた」と回答した生徒の数値が他の項目に比べ、やや低い点が今後の課題である。</td></tr>
<tr><td>②　A</td><td>互見授業には昨年度より多くの教員が参加し、研修した。また、ICT 機器をより有効に活用することができた。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">・「主体的・対話的」というのがよい。まず自ら考える力を身に付けてほしい。
・ＩＣＴ活用が向上しているのはよい。学びたい学生が学べる環境の整備（自己学習用教材）、進路指導する側（教員）も学習することも大切かと思う。
・互見授業への取り組みが成果に結びついていると思う。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="2">・進路目標を早期に構築する。
・ICT 機器の有効活用に向けた研修を実施する。</td></tr>
</table>

（評価基準　　A：達成した　　B：ほぼ達成した　　C：現状維持　　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和４年度　　富山いずみ高等学校アクションプラン　－2－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">2 学校生活</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">・集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる力の育成
・交通安全や防犯に関する意識の高揚
・命を守ろうとする主体的な危機管理能力の育成</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・スマートフォンの普及に伴い、校内での使用ルールやマナーを守らない生徒や、長時間使用し、学習や生活に支障を来す生徒が一部に見られる。また、少数ではあるが、安易に SNS に個人情報を掲載する生徒もいる。今年度は、ネットパトロールからの指摘は受けていない。
・昨年度の自転車乗車中における交通事故は９件発生している。
・「携帯・スマホを使用しながら」や「イヤホンを装着しながら」登下校する生徒が一部に見られる。また、歩道から車道へ急な進路変更が危険であると、外部からの指摘もあった。
・災害に関する関心や危機感が低く、災害についての知識も浅薄である。そのため、普段からの災害の備えや災害時に自分や家族の生命を守る方法について、当事者意識をもって考えることが少ない。
・近年、全国各地で生活に甚大な被害をもたらす地震や水害などの自然災害が頻発している。富山県は比較的地震等の災害が少ないため、正常性バイアスに囚われているケースも多く、生徒の危機管理意識に個人差が見られる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①交通安全と携帯・スマホ使用に関するアンケート回答で「ルールが意識できている」生徒の割合</td><td>②災害時の安全確保や感染症予防にも留意し、自分や周囲の人々の命を守るために家族や友人と共有できる知見やライフハックを身につけ、実践できるようになった生徒の割合。</td></tr>
<tr><td>９０％以上
（１月実施「マナー・規範意識」アンケート）</td><td>７５％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・規律委員会全体の活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。
・生徒会と規律委員会を中心に作成した「富山いずみ高校ネットルール」の全校生徒への周知を行い正しいネットの使用方法について考えさせる。
・外部機関と連携して、安全教育に関する講演会を継続する。</td><td>・防災に関する知識やスキルを得られるよう、専門家の講義や体験的活動を企画する。
・統一 HR「防災講座」で被災時に実践できる具体的な行動を考えさせる。
・保健だよりや掲示などによる啓蒙活動を継続的に行い、理解を促す。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td>８０．６％</td><td>８９．５％</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td>・外部講師を招き、リモート形式で安全教育講演会を実施した。
・規律委員会を中心として、以下の活動を行った。
1「朝の活動」
規律委員と教職員で月1回、正門前や通学路においての横断支援やあいさつ運動を行った。また、昼休み時間を利用し、自転車のカギかけと駐輪マナーを呼びかけた。
2「マナー・規範意識」をテーマにしたアンケートの実施
実態把握できたので、統一HRの実施につなげたい。
3「秋のさわやか運動」
PTA・教職員も参加し、3日間にわたって運動を展開した。規律委員会が学校スローガンに基づき、ポスターを制作するなどの啓発活動を行った。昼食時には放送部に依頼して、「さわやか運動」の重点項目を呼びかけた。</td><td>・統一HR「防災講座」では災害を経験した高校生の作文を読み、防災に対しての避難訓練や心構えの重要性を知り、いのちを守り、いのちをつなぐとはどういうことかを考えさせた。また、グループワークを通じて防災で自分にできることは何かを考えるとともに、新聞紙を用いた防災グッズの作成に取り組ませた。生徒たちは筆者のいのちをつなぐ強い思いに感銘を受けており、今後の自分の生活の見直しや日頃からの備えの重要性を痛感していた。
・富山県防災士会や日本赤十字社の出前講座を活用し、専門家から防災への備えについて、具体的な事例を示した講義や新聞紙や風呂敷を用いたライフハックのワークショップをしていただいた。地震等の災害発生に備えて、今すぐ実践できることについて知見を得ることができた。
・掲示物等で感染症対策について周知を図り、学校生活を安心して送られるように腐心した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　価</td><td>①D</td><td>スマートフォンの使用に関する項目で目標を達成することができなかった。</td></tr>
<tr><td>②A</td><td>専門家による防災教育を推進することで、防災に関する知見を習得し、災害時の安全確保や、自分や周囲の人の命を守る行動を継続して実践できるようになった。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">・スマートフォンの使い方を指導していくことが大事である。ルールの多くは「皆が安全に暮らすため」「危険を回避するため」に定められている。ルールの中で生活を送る習慣をつけることの大切さに気付く取り組みが必要と考える。
・富山は災害が少ない点から大人も油断しがちである。日頃からの訓練や防災意識の育成が重要である。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="2">①ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう、継続して指導に取り組んでいく必要がある。
②近隣の県でも地震が頻発している。災害の比較的少ない富山県に在住しているとつい油断しがちになるため、今後も引き続き防災教育の推進に努めていく必要がある。</td></tr>
</table>

（評価基準　　A：達成した　　B：ほぼ達成した　　C：現状維持　　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="4">令和４年度　　富山いずみ高等学校アクションプラン　－3－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">3 進路支援</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">・面接指導の充実
・３年生への進路支援の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・社会とのつながりについての意識が希薄であり、進路や学習に対する目標が明確でない生徒、あるいは狭い視野でしか物事を捉えることができていない生徒が散見される。
・家庭学習が習慣化していない生徒、また、学習態度はまじめだが基礎学力が定着していないため学習に困難を感じている生徒が見られる。
・３年総合学科では、１，２年生の指導をふまえて、個々の進路実現に向けた支援として、小論文や面接指導など志望先に応じた指導を充実させることが求められている。
・大学入試制度改革への対応として、１ 年「産業社会と人間」、２年・３年「総合的な探究の時間」などを利用して、生徒が自分の考えをまとめて「話す・書く」などの、表現力を深化するための取り組みが始められている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成目標</td><td colspan="2">①　面接指導の充実</td><td>②　３年生への進路支援満足度</td></tr>
<tr><td colspan="2">・面接を通して「自己理解が深まり主体的に進路を考えるために役立った」と回答する生徒</td><td>・3 年間の進路支援のための取り組みに対して「満足した」と回答する生徒</td></tr>
<tr><td colspan="2">８０％以上</td><td>平均５０％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・学習実態調査、進路希望調査、ルーブリック自己評価、学習成績記録等を有機的に結びつけ、面接指導に活かす。
・面接週間期間は生徒面談を優先するため、校時･行事について配慮する。
・教科担当者との面談も必要に応じ設定する。</td><td>・一般選抜を含め、小論文指導、面接指導など、志望先に応じた指導体制の充実を図る。
・過去問や受験報告書等の蓄積データをデータベース化し活用できるようにする。
・生徒の進路志望と外部模試の結果分析を行い、授業改善や進路指導に活かす。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">８１．１％</td><td>５５．７％</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="3">・１学期、２学期については、学期はじめに２週間程度の面接期間を設け、そのうちの１週間は短縮授業を実施し、面接時間の確保に全校的に取り組んだ。年間を通して、科目選択や進路希望に関わることなど、各学年とも３回以上の個別面談を実施している。
・学習支援アプリ等のICT活用や、Google classroomを利用した生徒の学習活動やアンケート結果のデータ集約を進めた。学習への取り組み状況を把握することで、面談資料としても活用できた。
・進路指導室PC内の過去問データベースの活用を進めた。学校推薦型選抜をはじめ、一般選抜まで、延べ５０名以上が利用した。資料検索を効率的に行えるようにした。
・学校推薦型選抜受験者に対する個別指導を全校体制で行った。担任負担の軽減のため、提出書類の精選や手順の見直しを行った。
・教員向け小論文指導研修会をリモートで実施した。２０名程度の教員が参加し、志望理由書の書き方を含め、小論文指導についての有益な情報が得られた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価</td><td>①B</td><td colspan="2">面接が「役立った」「ある程度役立った」と答えた生徒の割合は、全体で 81.1%、(１学年 86.1%、２学年 76.4%)であった。多様な進路支援のための対応力が求められる。</td></tr>
<tr><td>②A</td><td colspan="2">３年間の進路支援の取り組みに対して、「満足」と答えた生徒の割合は 55.7%、「ある程度満足」は 40.2%であった。個別の取り組みについては、担任面談や、面接･小論文指導といった個別指導に対する満足度が高い。また、「卒業生に学ぶ」、「先生方語る」などの進路行事を通して、身近な存在からの情報が参考になったという意見も多くあった。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="3">・生徒自身が本当に興味のあることに気づかせてあげることが重要と考える。そのために、多くの事例にはやくから触れる機会を作ってあげることが大切で、必要に応じ、卒業生の皆さんのお力も借りられるといいと考える。・信頼する先生からの助言は生徒にはとても残るので継続していってほしい。
・人格否定しない指導がありがたい。
・多様な授業が合ってよいが、その一方で色々あって進路が定まらない生徒もいる。指導を続けてほしい。
・面接する側の訓練（各種研修やセミナーの受講など）も必要かと思う。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="3">・多様な入学者選抜方式の中で、生徒個々の強みを活かす方式の選択と指導について、体系的な指導体制を構築する。
・学習支援アプリや成績処理システムの活用による、面接資料や志望理由書、活動調書の作成など、新しい多面的･総合的な評価を進路の実現に繋げる方策を検討する。</td></tr>
</table>

（評価基準　　A：達成した　　B：ほぼ達成した　　C：現状維持　　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="4">令和４年度　　富山いずみ高等学校アクションプラン　－４－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">4 特別活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">・生徒会執行部を中心とし、生徒全員による主体的な学校行事の取り組みを支援
・各部活動やホームルーム、委員会活動に協働的に取り組む態度の育成
・読書意欲の向上と幅広い読書の推進</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・各学校行事に対する充実感は高い一方、参加意識や関わり方が薄い生徒も見られる。生徒一人一人が主役であることを意識させるとともに、積極的に企画運営に携わることで充実感を一層向上させたい。
・部活動やホームルーム活動、委員会活動では、決められた役割を確実にやり遂げる生徒は多いが、グループ全体の目標や役割に対して協力して取り組もうという態度に物足りなさを感じる。目標達成や諸問題の解決のために仲間や教師と協動して取り組もうとする態度を育成したい。
・朝読書により生徒たちは読書を身近なものととらえている。しかし、残念ながら読書習慣にはあまりつながっておらず、家庭での読書量は朝読書の半分程度となっている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①各学校行事への取り組みに対する充実感、達成感</td><td>②ホームルーム活動をより充実・改善した担任の割合</td><td>③２学期末において、朝読書、朝読書以外も含めて、充実した読書ができたとする生徒の割合</td></tr>
<tr><td>９０％以上</td><td>８０％</td><td>５０％以上（１・２年生）</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・事前アンケートを実施し、生徒の意見や要望を取り入れることで、参加意識を高める。
・生徒議会や生徒総会等を活用して各行事の内容を生徒に周知するとともに、広く意見を取り入れる。</td><td>・クラスの「育てたい力」を生徒ともに考え、年間を通して方策を探る。
・いずみ文化展のクラス発表を通して「育てたい力」の伸長が図れるように工夫する。</td><td>・読書履歴調査に各学期の読書に関する目標を周知し、まず、落ち着いた雰囲気で一日をスタートし、朝読書の時間は集中して読書に取り組むようにする。各学期末に生徒が振り返る機会を設定する。２学期末においては、充実した読書ができたと言えるように、各自が目的意識をもって読書に取り組むようにする。
・「朝読書」を継続する。
・統一ＨＲ「読書の時間」で友人の読み方を知り、読書の面白さを味わう場を設定する。
・「LIBRARY」の発行や企画展の実施等、図書委員会の活動を充実させ、幅広い読書を推進する環境づくりに努める。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td>体育大会　　満足度98%
いずみ文化展 充実度98%</td><td>本校担任１年目　50%
本校担任２年以上 82%</td><td>充実した読書ができた生徒　43%
充実した読書がほぼできた生徒　30%</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="3">①　学校行事では、生徒会執行部を中心として生徒の意見を反映させながら企画・運営に取り組ませた。体育大会では係生徒の割合を増やし、多くの生徒が運営に主体的に携わっているという自覚を持たせた。また、３年に一度の文化展には企画の目的や内容についてクラスでの話し合いの機会を複数回設け成功に向けて各々の役割に対して協働して取り組もうという態度や参加意識を高めさせた。
②　ＨＲ運営委員には、年４回のリーダー研修会を行った。ディベートを取り入れた話し合いの進め方を学び、クラスでの話し合いを円滑に進められるようにさせた。また、「育てたい力」を担任と考え、文化展の展示発表でその具現化のための手立てをクラス全体で考えさせた。担任にはホームルーム活動の目標を周知し、ＨＲ計画作成に当たって「育てたい力」の実現に向けた内容を取り入れ、学級運営の向上を目指した。
③「朝読書」で落ち着いた雰囲気で一日をスタートさせ、「朝読書」の時間は集中して読書に取り組むことを基本的な取り組みとして実施した。統一ＨＲ「読書の時間」では、クラスで各自が読んだ本について話し合う機会を作った。また、年度末に振り返り場面を設定する予定である。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評　　価</td><td>① A</td><td colspan="2">生徒一人ひとりが行事の企画段階から関わり、自己の役割を意識して学校行事に参加したことで高い満足感や達成感が得られた。</td></tr>
<tr><td>② B</td><td colspan="2">担任は「育てたい力」育成の手立てを試行する機会が少なく、活動への反映が難しかった。HR 運営委員は、リーダー研修会などを通して役割を自覚し、担任と協力して HR 活動の充実に努めた。</td></tr>
<tr><td>③ B</td><td colspan="2">充実した読書ができたとする生徒は 43%であったが、ほぼできたを加えると合計が 73%であった。できたと回答した生徒だけでは 50%に若干届いていなかったが、当初の目標はほぼ達成できたと考える。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="3">・体育大会や文化展などの行事は、学生時代の大きな思い出の一つになる。生徒の皆さんが限られたリソースの中でいかに効果的な活動を展開できるか、考えさせる環境や機会を与えてあげることが大切だ。
・クラスや学校全体で取り組めるテーマ（ＳＤＧｓや環境保全の取り組みなど）を選定して、社会課題の解決に、取り組むのも一つかと思う。
・自分の可能性を広げる手段として、読書は有効かと思う。生徒の皆さんの読書習慣が身に付くように、引き続き、生徒の皆さんが推薦する図書等をアナウンスしていくことも有効と思う。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="3">①生徒が主体的に学校行事に取り組めるような支援と実施方法の模索の継続が必要である。
②ホームルーム活動の内容の見直しを行い、「育てたい力」の伸長を図るための方策の試行を重ねてホームルーム活動の充実を図る。
③朝読書以外の読書時間が少ないことが同時に行った調査からわかっており、教科・探究との連携を意識した指導によりさらに読書に親しむようになってもらうことを考えたい。</td></tr>
</table>

（評価基準　　A：達成した　　B：ほぼ達成した　　C：現状維持　　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和４年度　富山いずみ高等学校アクションプラン　－５－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">その他（看護科教育の充実）</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">・看護師国家試験合格及び進路実現を目指した学習及び進路指導の充実
・専門教科への興味・関心の向上及び職業観・社会人基礎力の育成</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・学年によってはクラス内で学力の二極化が見られ、生徒に合わせた学習指導が難しい。
・看護師養成校として看護師国家試験合格は必須であり、合格率100%を目指している。
・卒業後就職以外に保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学や大学編入希望者がいる。
・看護職者として社会人基礎力及び倫理観の育成が求められている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①　進路実現
看護師国家試験合格率・進路達成度</td><td>②　看護科意識調査での満足度
専攻科修了生への「看護科で学んで良かったか」の問いに「満足した」と回答した生徒</td></tr>
<tr><td>１００%</td><td>８０%</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・国家試験対策として、研修会への参加（WEB）をし、新出題基準を見据えた指導方法の工夫を図る。
・早期に必修問題に取組み強化していく。
・苦手意識の高い解剖生理の知識の定着を図るための授業改善、授業進度の工夫、授業評価を取り入れていく。
・高校１年次から継続的な学習習慣を確立し、学習時間の増加と生徒の習熟度に合わせた指導法を工夫するとともに、成績下位者への個別指導を行う。
・就職試験対策講座を活用し、早期に進路決定させ、計画的に面接・小論文指導及び進路懇談会を実施する。また専攻科１年次の保護者会や高校での保護者懇談会の実施により理解を得る。
・大学編入希望者、保健師・助産師への進学希望者の実態把握をし、校内での指導体制の強化を図る。</td><td>・入学時より看護職者としての自覚及び社会人基礎力、倫理観の育成や看護教科に対する興味・関心を高める教科指導法や看護科行事を工夫する。
・意識及び進路調査を分析し、生徒が抱える問題や悩みを把握し面接等の充実を図る。
・ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ教育を取り入れた演習の充実を図り、演習で身に付けた技術を臨地実習で活用できるように、生徒の学びや気づきを引き出す関わりをしていく。
・合同ＨＲ及び自治会交流会などでのピアサポート活用による異学年間交流を充実させる。
・臨地実習での振り返りを確実に行い、達成感とともに自己の課題を明確にし、課題解決能力に繋げる。
・専攻科２年次の就職対策への取り組みについて、保護者との共通理解を図る。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td>看護師国家試験全員合格：100%
就職（28/29名、1名結果待ち）進学80%（4/5名、1名就職へ）</td><td>・看護科で学んで良かった、概ね良かったが97%</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td>・国家試験対策として、研修会に参加し「新出題基準」に添った授業を実施した。また、成績下位者には個別指導を行い苦手分野の克服に努めた。引き続き、朝テスト継続中である。
・高校１年生は新カリキュラムに伴い、授業進度を変更し、各教科担当者間で内容の確認を行いながら、生徒が履修した知識を関連づけて学習に取り組めるよう努めた。
・ﾏｲﾅﾋﾞの就職講座を12月と３月実施、意識付けを図った。
・進学希望者が例年より多く（大学編入２名、助産師学校３名）国語科・英語科と連携しながら進路指導を実施。また、２月末、専攻科1年進学希望者と2年の進学者との相談会を実施予定である。
・コロナ感染に関連した自宅待機者への学びの保障の確保に努めた。</td><td>・看護教育振興会講演会で卒業生の講演を聴講し、看護へのモチベーションが向上し、看護観の育成に繋がった。
・臨地実習での代替演習では、オンラインを用いて「臨床推論・臨床判断」の育成に取り組んだ。
・臨地実習において、国家試験の問題と関連づけて、指導すべき点を明確にしながら意識して関わった。また、臨地実習の振り返りをグループ間で実施し、学びの共有をすることで、生徒自身が成長を実感し、自己肯定感の向上に繋がった。
・合同ＨＲや合同授業、専攻科学習交流会等、異学年との関わりにより、生徒間の関係性の構築や支え合いが深まった。
・問題や悩みを抱える生徒との面談を繰り返し行い、学年間と共に保護者にも密に連絡を取り関わった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評　　価</td><td>①B</td><td>看護師国家試験全員合格100%で目標達成したが、進路に関しては、就職28名内定、進学４名決定（80%）
未定者１名（就職１名結果待ち）となったため</td></tr>
<tr><td>②B</td><td>「生活指導」等への満足度が低く、目標値を下回ったため</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">・コロナ禍の影響か、私が勤務する病院の実習生の中には、内向的な学生や主体性に欠ける行動が見受けられるようになってきた。看護師として求められるコミュニケーション能力を高めるための工夫をしていって欲しい。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="2">・臨床判断能力育成のためのシミュレーション教育の充実とＩＣＴ活用の一層推進する。
・高校の「解剖生理」などの基礎的知識の定着困難による学力の低下への学習体制を検討する。
・Ｒ４年度からの新カリキュラムによる授業の工夫や効果的な授業方法を検討する。</td></tr>
</table>

（評価基準　　A：達成した　　B：ほぼ達成した　　C：現状維持　　D：現状より悪くなった）